

平泉古事の森の取り組みについて

岩手南部森林管理署 森林育成係長 ○平川春樹
経営係長 木下知久
管理係長 吉田有作

1. はじめに

岩手県平泉町には、平成23年に世界文化遺産へ登録された中尊寺と関連4資産のほか、歴史ある神社・仏閣が多く建立されている。これらの建造物にはヒバ材が多く使われており、中でも中尊寺金色堂の土台や柱などの構造材にはすべてヒバ材が使用されている。

こうした歴史的建造物の修復には樹齢200年～400年生の大径材が必要であり、そのような材を育成していくためには、次世代へ森林づくりの意義を理解させ、その役割を継承していくことが不可欠である。

岩手南部森林管理署では、平成21年9月に平泉の歴史的建造物の修復材を育てる場の提供を目的として、平泉古事の森育成協議会と木の文化を支える森林づくり「平泉古事の森づくりに関する協定」を締結した。本協定は全国では10箇所目、東北では初の締結である。

協定締結から3年が経過した現在、この取り組みの成果及び課題について検証した。

2. 取り組み内容

(1) 協定箇所の概要

「平泉古事の森」は、岩手南部森林管理署管内の月山国有林16林班ほ小班外12小班で、合計面積10.21haが設定されている。

(2) 「平泉古事の森育成事業」の取り組み

① 概要

平成21年度の協定締結から年に1回、平泉町と隣接する奥州市の小学校4校の4年生を対象に「平泉古事の森育成事業」を実施している。

その内容としては、「平泉古事の森」について理解を深めてもらうために、育成事業の趣旨・目的や森林の役割等についての事前学習を各小学校で開催し、こうした事前学習を踏まえたうえで森林環境教育の実施、保育作業の実体験を行っている。



事前学習

② 各年度の取り組み

ア 平成21年度

協定締結式などの記念式典及び記念植樹が行われた。

記念式典では「古事の森を作ろう」と題して、古事の森の提唱者である作家の故・立松和平氏の記念講演が行われ、東北森林管理局長をはじめ多数の来賓が出席された。

記念植樹では関係者のほか小学校4校の児童100名も参加し、ヒバ200本・ケヤキ50本の記念植樹を行った。

この協定締結式はマスコミにも取り上げられ、地元をあげての「平泉古事の森」としての取り組みの第1歩を踏み出した。



記念植樹

イ 平成22・23年度

この2年間においては引き続き植樹活動を行い、ヒバ550本、ケヤキ50本の植栽を実施した。事業の事前学習としては、「平泉古事の森」の制度及び植樹をした樹種への理解を深めてもらうため、ヒバ・ケヤキの成育過程について学習している。また、野外では植樹の他、前年度植栽箇所の観察会や森林教室も併せて開催した。



植樹作業

ウ 平成24年度

事前学習において「森林を育てる」をテーマに学習し、各種保育作業の役割と効果、間伐の意義について理解を深めた。野外での作業は今年度から保育へと切り替えており、小学生が丸太切りで作成した輪切りをヒバの周りに敷き詰め、下層木が生えてこないように植栽木周辺を被覆する作業を行った。その後は森林への興味や観察力を養う目的でクイズ形式の「森のビンゴゲーム」を実施した。



丸太輪切りの設置

3. 本事業の検証

平成24年度の育成事業へ参加した児童98名を対象に実施したアンケートの分析、及び平泉古事の森育成協議会事務局を担当している平泉町役場の鈴木氏へ聞き取りを行い、今後の平泉古事の森の活動における課題を検証した。

(1) アンケートの結果

アンケートは「事業の目的への理解」、「森林について知りたいこと」・「森林でどんなことをしたいのか」、「事業の感想」の各項目について行った。

本事業の目的については、「わかった」81名、「少しわかった」17名という回答であり、概ね理解しているとの結果になった。

また、「森林について知りたいこと」・「森林でどんなことをしたいのか」での回答を①「山づくりに関する作業の体験」②「学ぶ」③「遊び」の3つに分類して集計すると、①では事前学習で学んだ地拵・植樹・間伐について体験したいという要望が多くあげられていた。次に②では、木の成育過程、森林に必要な手入れ、樹木の種類、各種保育作業の見学がしたいという意見が多数上げられていた。そして③では、机・いす・遊具などの木の工作やゲーム形式を取り入れた森林散策をしたいという意見が多かった。

事業の感想としては、「森林は災害から守ってくれる」「金色堂の修復に使われるかもしれない木を育てることに携われて良かった」との回答が多く、森林環境教育の成果が見受けられるアンケート結果となった。

(2) 聞き取り調査から浮かび上がった課題

聞き取り調査では、以下の3点が課題としてあげられた。

- ① 植樹を終え、今後の現地作業としては下刈、除伐、間伐という保育作業の段階に入ってくるが、除伐・間伐においては小学生だけで行うことは難しくなるのではないかと。保育作業を行ううえで、一般のボランティア募集等も検討していく必要があるのではないかと。
- ② 現在の事業は、国土緑化推進機構の「緑の募金」の支援を受けているが、今後予想される下刈、除伐、間伐等の保育作業に必要な経費を考慮すると予算事情が厳しい。
- ③ 現時点で、歴史的建造物のどの部分に使用していくかということについて、具体的に決定していない。使用する部分を決定していくことにより、どのような大径材を目指すのかということが見えた方が事業を推進していくうえで良いのではないかと。

4. 考察

アンケートの結果から、本事業における事前学習と現地作業の組み合わせに効果が大きかったことを成果として捉え、今後も同様の組み合わせで実施していくことが重要である。また、「ゲーム感覚で学ぶ」という点では児童達が受け入れやすく、有効性があるのではないかと考える。また保育作業等の見学を要望する意見も多数あり、児童に直接間伐等の現場を見てもらうことも森林づくりを理解してもらうためには重要である。また今後の保育

作業については、鎌などの刃物を扱う保育作業が主となってくるため、作業を指導する人員を確保するために地元の林業関係者などの協力を得ながら安全性を確保した上で実施することが必要である。

「古事の森」の目的として歴史的建造物の修復に使うための「森を育てる」ということがメインである。中尊寺本堂では平成 23 年度に改修をしており、改修を担当した宮大工の方を講師に招き説明を受けながら歴史的建造物を見学するなど、ヒバ材がどの部分へ使用されているのかを知ることによって古事の森の活動についてのイメージが掴みやすくなるのではないかと考える。アンケート結果や聞き取り調査で浮かび上がった課題については、協議会において議論していくことが必要と考える。

5. まとめ

貴重な世界遺産である平泉の神社・仏閣への修復材を供給できる森林づくりや児童の心が届く森林環境教育をとおして子供たちと森の架け橋になることで、木の文化を守り育てるという気持ちが孫・子の代へ継承されて行くことが必要である。

当署として、今後も「平泉古事の森」の取り組みを平泉古事の森育成協議会とともに積極的に推進していく必要がある。